

調 査 研 修 報 告 書 (議 員 用)

報告者：吉 方 明 美

実施場所：尾道商工会議所大会議室	実施日：11月2日～11月2日
<p>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など） 自治体にとって重要課題となっている「空き家」対策について、尾道の取り組みを視察した。</p> <p>他市と違うところは、どこも空き家の「撤去」を進めているが、尾道ではこれを再生して、観光客向けに活用している取り組みである。</p> <p>店舗に変えたり、ゲストハウスに変えたり、又は自宅用として再生し移住してきている若者が多くいた。</p>	
<p>■参考とすべき事項</p> <p>尾道の特徴は「坂道」と「路地」である。そのような中に、ひしめくように立っている住宅は多くは屋根が落ち、床が落ちかけた、ほぼ廃屋状態のものが多くあった。</p> <p>この原因は、地形的に車が入らないため、家が片付かない、高齢化が進み、住みにくくなり、放置したまま家主が不在の状況があるためである。</p> <p>こうした物件を再生し、活用している取り組みを視察したが、この取り組みを成功させたのには、多くのアイデアがあった。</p> <p>① 移住してきた人が講師になり「尾道まちづくり発表会」を開催し、魅力を発信している。</p> <p>② 「尾道建築塾」を開催し、修復技術を教えあっている。</p> <p>③ 「空き地再生ピクニック」と称して、空き地の草取り、片づけをして楽しんでいる。</p> <p>④ 「尾道暮らしサポートメニュー」として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改修アドバイス ・専門家を現地派遣する ・空き家片づけ隊の派遣 ・道具の貸し出し ・坂暮らし体験ハウスの提供 <p>などがあり、楽しみながら若い人が暮らしていた。</p>	
<p>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</p> <p>本市と、尾道が違うところは、本市は尾道ほどの廃屋はない。生活環境も車が入らない坂道はない。しかし、空き家はあるが、他人へ貸し出すことを拒む傾向がある。</p> <p>所有者の意向として、売らない、貸さないで、なかなか手が付けられないのが実態だ。</p> <p>田舎なので、放置していることで崩壊の危険はあるが、周辺の家屋への被害が比較的少ないものの、景観上看過できないことも多々ある。</p> <p>尾道も再生できる家屋は手が付けられるが、すでに崩壊状態のものをどうするかについて悩んでおられた。</p> <p>行政が強制撤去も考えられるが、費用負担をどうするかの問題もあり、（持ち主不在の時、または持ち主の同意がない時など）難しい課題だと考える。</p> <p>若者が移住してきたとしても、やりがいのある仕事が不足しているという課題は、尾道も同様であった。</p>	